

# 平成26年度 茨城県海外子女教育・国際理解教育研究会 帰任者報告書

(派遣先：米国 ニュージャージー州 ニュージャージー補習授業校)

水戸市立下大野小学校 教頭 上宮正人

## 1 はじめに

今回派遣されたニュージャージー補習授業校は、ニューヨーク州（マンハッタン）とはハドソン川を挟んだ西側のフォートリー市に事務所が、更にその西側のパラマス市に借用校があり、全校児童生徒約500名の学校である。日本の青森県とほぼ同緯度に位置し、冬が一年の半分近くを占める気候である。高速道路網、鉄道網とも全米で最も発達しており、多くのオフィスビルや「ガーデンステート」と呼ばれるほど緑の多い住宅地もあり、全米でも裕福な州として知られている。一方、貧富の差も激しく、犯罪発生率も高いところである。

1996年4月から1999年3月まで、ミシガン州のデトロイト補習授業校へ派遣された経験があったことから、2度目の補習授業校ということで、以前の経験を生かしながら多くの実践に取り組んできた。その一端を紹介させていただきたい。

## 2 補習授業校とは？

平成26年4月現在、海外で生活している義務教育年齢子女数は71,628人で、日本人学校在学者が20,878人、補習授業校在学者が17,999人、現地校・その他が32,751人である。また、海外の学校数では、日本人学校は50カ国88校に対して、補習授業校は55カ国202校である。その割に補習授業校に対する認知度が低いのは、これから紹介する学校の特性によるところが大きいと考える。

補習授業校は週に1回だけ、年間でも42回程度、現地校が休みとなる土曜日に「日本語の保持を目的」として設立された学校である。週1回の学校なので自前の校舎は無く、高い借用料を払って現地校の校舎の一部をその日だけ借りて開校している。そこへ通ってくる子どもたちは、月曜日から金曜日までは現地校に通い、現地の子どもたちと一緒に英語で学習している。補習授業校では、国語や算数・数学、社会を日本と同じ教科書を使って学習している。当然、現地校でも補習授業校でも宿題等があるので、子どもたちは2つの言語で、普通の子の2倍の学習をしていることになる。よく「アメリカで生活していれば英語は自然に話せるようになる」という話を聞くが、それは大きな間違いで現地校と補習授業校、2つの学校で人一倍努力したからこそ、日本語を忘れずに英語が話せるようになることを知っておいていただきたい。

次に、補習授業校へ派遣された教員はいったいどんな仕事をしているのだろうか。「土曜日だけの学校なら暇だよ」とよく言われるが、これも大きな間違いである。まず、日本からの派遣教員の人数であるが、小中学校在籍者100人で1名、以降300人増える度に1名増えるので、ニュージャージー補習授業校は校長と教頭の2名派遣であった。30名を超える担任の教員はすべて現地採用で、働けるビザを有している人しか雇えないので、教員免許をもった方は皆無であった。しかも、雇用は土曜日1日限りなので、平日は派遣教員2名と事務員3名が事務所で勤務するだけで、担任の教員とは土曜日にしか会えないのが普通であった。そんな学校でも、入学式、遠足、運動会、学習発表会、卒業式など日本の学校と同じような行事を行っていたので、それらすべての企画・運営をするのが派遣教員の仕事であった。それから、一番の任務は現地採用の教員に授業法や教材研究など、教員としてのノウハウを指導することであった。ほとんどの教員は、月曜日から金曜日までは別の仕事をしているので、メールでやりとりをしながら、教材研究を手伝ったり、教材を準備したり、授業の進め方の相談にのったりした。中には事務所を訪ねてくる熱心な教員もいたので、一緒に教材を作ったり、授業談義を交わしたりもした。この他、転出入者の手続きや、借用校との打ち合わせと調整、借用教室の教員からのクレーム対応など、土曜日以外も分刻みで仕事が入っていたのが現状である。

### 3 ニュージャージー補習授業校における実践

#### (1) 授業研究会の実施（教員一人一人の授業力を高めるために）

週に1回だけの学校とはいえ、高い授業料（年間20万円以上）を払って通わせている保護者からすれば、授業の質を求めるのは当然のことである。一方、担任の教員はほとんどが教員免許を持たない上、自分が日本にいたときに受けた20～30年前の授業を実践している者もいる。また、学年の配置転換も難しく、10年以上同じ学年を教えている教員が多い。

そんな教員一人一人の授業力を高めるため、「一人1時間の授業公開と授業参観」という研修に取り組んだ。授業公開にあたっては、指導略案と板書計画を作成し、校長と教頭、それに同じ学年の教員1名が参観できるようにした。授業でのめあてや流れ、使用する教材等、メールで個別にアドバイスをし、実施後は意見交換会を開いた。難しかったのは授業参観の方で、米国の法律上、子どもだけを教室におくことができないため、事務長や運営委員会の了承を得て、その時間だけ代わりの先生に授業を進めてもらうよう予算と人的手配をした。

意見交換会では、他者の授業を見るのが初めての先生が多く、新鮮で役立ったという話が多く出た。この研修が、授業力を高めるきっかけになってほしいと願った。

#### (2) デジタル教科書の導入（小中の国語、算数・数学、社会で活用）

上記の研修を通して、教材研究の一環として自分で挿絵を描いたり、教科書の一文を模造紙に大きく書き写したりして授業をする先生が多いことに気付いた。これらは既にデジタル教科書に含まれている内容であり、他の教材研究にもっと時間を割く必要性を感じた。そこで、事務長や運営委員会と相談し2年がかりで全学年のデジタル教科書を購入してもらった。その使い方については、手当てを支払って放課後に時間を特設し、教頭が模擬授業を展開しながら研修を行った。保護者への広報活動も行ったことで、寄付を申し出てくれる企業も現れ、全クラス分のPCやプロジェクターもそろえることができた。

現在では、ほぼ全教員が授業に取り入れるようになったばかりでなく、自分なりに工夫を凝らし、板書の一部として見やすくて分かりやすい黒板にする教員も出てきた。これにより、授業展開や発問等の教材研究に時間が割けるようになったことがよかった。

#### (3) 児童生徒の現状と保護者の願い（授業場面以外の学校生活を通して）

転入したばかりの子は現地校で英語の学習に苦戦し、長期滞在の子は補習授業校で日本語の学習に苦戦している。また、保護者は、帰国間近な方は日本の学校でも適応できる学力を身に付けさせたいと願い、長期滞在となる方は日本の祖父母と日本語で会話ができればいいと願う。また、永住の方は日本文化の一端に触れることができればそれでいいと願う。そんな多様な現状と願いが混在しているのが補習授業校である。子どもたちは、2つの言語の狭間で多くのストレスを抱えながらも頑張っている。そのモチベーションに係わっているのが休み時間の遊びであり、学校行事である。子どもたちは、行事を通して自信をつけ成長していく。その仕掛けをし、やらせて褒めるのが派遣教員の役割である。次ページ以降にその実践例をいくつか紹介したい。これらは、地元の週刊フリーペーパーに投稿が取り上げられた記事で、年間35本ほど掲載されたうちの一部である。

【参考】 → 週刊NY生活 (<http://www.nyseikatsu.com/>)

### 4 おわりに

在外教育施設に派遣される以前は、高校や大学受験でどうして帰国処女だけ特別扱いされるのだろうかという疑問に思った時期もあった。しかし、現地で一生懸命頑張っている子どもたちを見て、今はもっと手厚くされるべきだと感じている。それだけ子どもたちは真剣に取り組んでいるし、異文化を肌で感じ、それぞれのよさを吸収している。今後ますますグローバル化が進むことになるであろうが、その最先端を走っているのが帰国子女である。そんな子どもたちの教育の一端に関わるチャンスを与えていただいたことに、心から感謝したい。

# STUDENT LIFE

## 週刊NY生活・アメリカの学校紹介と学生ライフのページ



### 英語でつないだ心と心

#### NJ日本人学校で国際交流

**現地校3年生 51人を招待**

11月15日、ニューヨーク日本人学校(児童生徒数65人、福澤隆治校長)の初等部40人は、地元オーランドのマンロー・エレメンタリースクールの3年生51名を招待し、学校間交流を行った。

当日は、「日本の食べ物」から「面白い」「フルーツバスケット・じゃんけん列車」フクロティンダベ

「バー」をマンローの子どもたちと一緒に楽しんだ。「面白い」は、日本の伝統的なおかしめとひよこの顔で、顔のパーツや方向を英語で伝え、できた顔を見て笑いかつ子供たちの姿が印象的であった。ひとつ一つの遊びを終る度に、子供同士の距離が縮まり、笑顔が溢れ合っていた。学校間交流は、年明けに相手校に訪問する予定。



### 初めての「化学教室」

#### NJ補習校

11月16日、ニューヨーク補習校(パラマス、屋敷長利校長)は、積水化学工業と共催した初めての「化学教室」を実施した。放課後、初等部4年生から中等部1年生までの希望者約60人がカフェテリアに集合すると、そこには白衣を着た12人の博士が子ども達を待ち構えて、生徒を4つのブースに分けて実験を開始した。ブース1は、「たまごを落としても安心?」というテーマで、クッション性の高いプラスチックを使った実験を行った。同じように見える塊でも重さが違う不思議さを体感したり、床に敷いたプラスチックに向かって生卵を落としたりした。ブース2のテーマは「われない? ふしぎなしぼん玉」で、水に溶けるプラスチックを使った実験を行った。しぼん玉の液に溶けるプラスチックを混ぜて膨らませると、手の平の上でバウンドさせても割れないしぼん玉が出来上がった。ブース3は「人知れず活躍! 自動車の安全装置」で、フロントガラスに使われる中間膜の実験が行われた。重い鉄球をガラスの上に落とすが、普通のガラスは大きな音を立てて粉々に割れてしまうのに対して、中間膜が入ったガラスはひび割れただけで飛び散ることはなかった。ブース4では「見えない世界を見てみよう」で、科学クラブ担当の松永先生が、分子モデルを使って説明を行った。目に見えない小さな世

界のものを身近なものに例えた話をして、スケールの大きさに圧倒されていた。子供たちは15人ずつの班に分かれ、順番に4つのブースを回ってすべての実験を行った。

### 日本の授業法を公開

#### 全米から90人の教師が視察 NY日本人学校で



ニューヨーク日本人学校(コネチカット州グリニッチ、児童・生徒170人、内野康之校長)は11月15日、アメリカの教師を対象にした公開授業「レッスンスター・オープンハウス」を行った。全米各地から集まった約90人の参加者は、日本の学習形態や指導方法を学ぼうと熱心に参観した。今年度は、「わかった!」「できた!」「楽しい!」を実感させる授業の創造というテーマで4つのデモンストラーションを実施した。全体では、ニューヨーク日本人学校の授業実践や研究デ

**SAMURAI MAMA**  
Tavern・Udon Noodle  
205 Grand St.,  
Brooklyn, NY 11211  
(地下鉄L Bedford駅徒歩5分)  
Tel: 718-599-6161  
www.samuraimama.com

**ニューヨーク補習授業校**  
**2014年度 入園・入学受付**

ウェストチェスター校	LI校
12月14日・21日(土)	1月11日・18日(土)
9:00~13:00 受付 (スクリーニング)	9:00~13:00 受付 (スクリーニング)
10:00~11:00 初等部新1年生	10:10~10:55 幼児部新年長
13:30~14:30 幼児部新年長	11:10~11:55 初等部新1年生
	13:15~14:00 幼児部新年中

※ 調査書の事前提出が必要です。(調査書は各校の期日までに事務所必着)  
※ 当日、スクリーニングの前に必ず受付を済ませてください。

Web: www.jwsny.org Tel: (914) 636-3770(事務所)

ニューヨーク日本人教育審議会  
**ニュージャージー補習授業校**  
(幼児部、初等部、中等部、高等部)

**2014年度 新入生募集開始**

土曜日の受付 12/7、12/14、12/21  
場所: パラマス校

火曜日~金曜日の受付 12/3~12/20  
場所: NJ補習校事務所

電話: 201-585-0555 Email: njws@jwsnj.org www.jwsnj.org

代教、幼児部アシスタント 登録者随時募集中

**★デイケア★**  
11月生募集  
■本人スタッフによる  
アート・音楽に力を入れた  
アットホームな  
ファミリータイプの  
保育

**★アフタースクール★**  
プログラム  
月: ボディーパーカッション、  
火: ヨガ、水: 数字・ひらがな、  
木: アート、金: ダンス

**★寺子屋★**  
ニューヨークステーツテスト、  
SSAT/ISEE、PSAT/SAT、  
SAT Subject、ACT、  
帰国子女受験対策を  
少人数制で■らか解けるように  
懇切丁寧に指導します。

**★音楽教室★**  
0歳から大人まで  
ピアノ、マリンバ、  
太鼓などを使い  
想像力を育成する  
クラス

**Starchild**  
マンハッタン・イーストビルレッジ  
www.starchildny.com  
または  
info@starchildny.com

文京学院は帰国生をしっかりと育成します  
**世界を視野に、未来を見据えて**

**グローバル女子を育てる**  
「国際塾」、海外大学、  
国際教養学部、  
外国語学部への進路多数

**アスリート女子を育てる**  
人気急上昇のサッカー部、  
全ベスト8の  
バレーボール部など

**理系女子を育てる**  
「科学塾」、スーパー  
サイエンスハイスクール  
指定校

**文京学院大学女子中学校 高等学校**  
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-8-13 http://www.bgu.ac.jp  
北米事務所 電話: 1-855-926-1140 E-mail: bunkyo@ujeec.org

